

〔家保のページ〕

公共育成牧場での取り組み

～矢掛町公共育成牧場の機能強化と衛生管理の向上～

岡山県井笠家畜保健衛生所

はじめに

矢掛町公共育成牧場は、(社)矢掛町畜産公社が管理運営する県南地域で唯一の公共育成牧場であり、県下全域から、乳用育成牛・繁殖和牛の預託を中心に約 300 頭を飼育し、酪農振興に重要な役割を果たしています。

井笠家畜保健衛生所では、備中県民局、農業普及指導センター、おかやま酪農業協同組合、農業共済連等と連携して、「矢掛町畜産公社衛生対策マニュアル」を策定し、牧場機能の強化を支援する活動を継続的に行っていきますので、この内容について紹介します。

前述のマニュアルは大きく分類すると、一般衛生管理指導、疾病対策指導、繁殖管理指導(受精卵移植による高付加価値化支援)の3つの項目に分けられます。

一般衛生管理指導

- ・一般健康検査
- ・発育状況調査(3回/年)

定期的に全頭の体重・体高測定を実施し、発育状況を把握。下牧時に預託者に発育状況成績を説明しています。

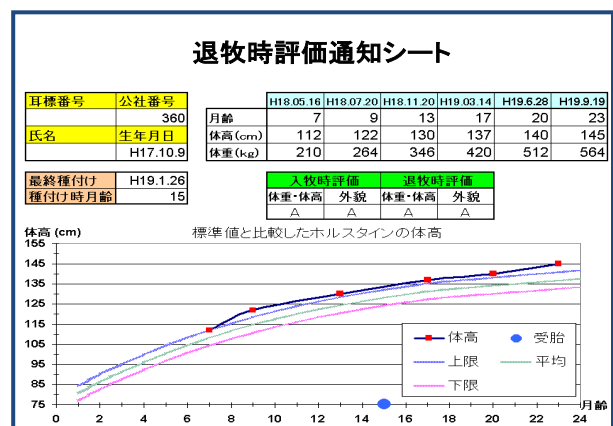
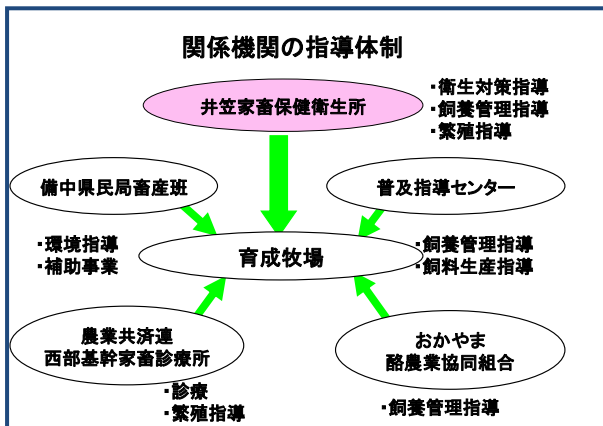
- ・一般外貌ランク付け(入退牧時)
- ・哺育牛の下痢対策(哺育舎の消毒等)



牧場の風景



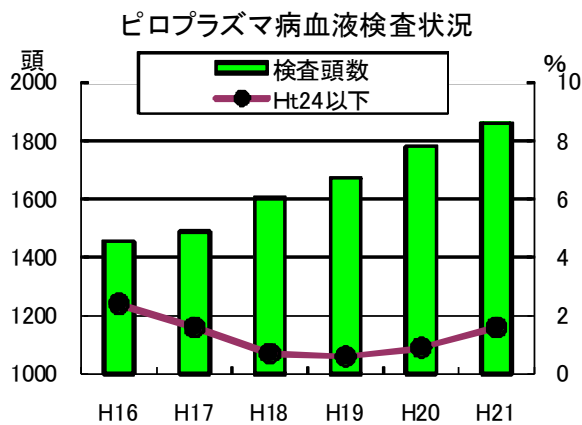
体側及び採血の様子



疾病対策支援

- ・法定伝染病（清浄性の確認）
結核病、ブルセラ病、ヨーネ病検査
※ヨーネ病に関しては、毎年実施
H21年度には、402頭の検査を実施しています。

- ・寄生虫病対策（定期検査と処置）
ピロプラズマ病の検査
3月から11月の間、血液検査や、駆虫剤の投与を実施し、退牧時にも預託農家にダニを持ち込まないよう薬剤を投与し下牧しています。



- ・ワクチン接種指導
預託牛は、入牧以降、衛生プログラムに基づき計画的に各種ワクチンを接種し、H21年度には、1,626頭にワクチン接種をしています。

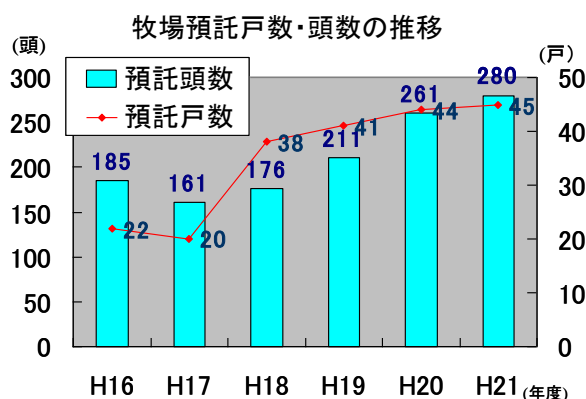
衛生プログラム

入牧時	結核病、ブルセラ病検査 炭疽ワクチン、嫌気性菌3種混合ワクチン
入牧後1ヵ月	IBR・BVD・MD・パラインフルエンザ3型生ワクチン
定期衛生検査	ピロプラズマ病 血液検査(鏡検、Ht値) 月1回 フルメリン製剤 投与 月2回
その他	異常産3種混ワクチン 4、5月 ヨーネ病検査(ELISA法) 年1回
退牧時	フルメリン製剤投与

繁殖管理指導

- (受精卵移植の活用による高付加価値)
- ・授精開始 13ヵ月から14ヵ月齢
又は、体高127cm以上
早期に受胎させることにより、預託期間の短縮につながり農家負担も軽減します。
- ・受精卵移植
現地和牛卵(公社で所有する繁殖和牛から体内受精卵を採卵)、県有償卵(乳牛卵・和牛卵)を預託者の希望に応じて移植しています。受精卵移植は、公社職員や家畜保健衛生所職員が実施しています。

以上の取り組み等により、最近の当該育成牧場への預託頭数は、約300頭に達しています。



今後も引き続き、関係機関との協力のもと、当該育成牧場の機能強化と衛生管理の向上に努めていきたいと考えています。